



初代 Nippon Tornadoes アシスタントコーチを務めた富山晋司コーチが 2014-15 シーズンから トヨタ自動車アルバルク東京のアシスタントコーチに就任した。学生コーチとして都内の中学生を指導する立場からスタートし、いわゆる“バスケットボール・エリート”といわれるコースとは大きく異なる道筋を辿って NBL の“古豪”で活躍することとなった彼に、近況を語ってもらった。

富山晋司さん(Nippon Tornadoes2009 AC)インタビュー

◆トヨタ自動車アルバルク東京のアシスタントコーチ就任、おめでとうございます。新しい環境への抱負とどうか意気込みをお聞かせいただけますでしょうか。昨年もbj千葉のヘッドコーチから NBL 熊本のアシスタントコーチに移籍ということで、新しい環境に移籍されました。残念ながら熊本ではシーズン途中で辞任ということになりましたが…。

昨年(2013年)夏は千葉でHCの契約を終えて、新たにチームを探していました。千葉ではHCをさせてもらいましたが、特別にHCでなくてはというこだわりがあったわけではないので、AC、HC 気にせずオープンな気持ちでいました。熊本は梅田キャプテンや、田村大輔選手など Nippon Tornadoes 時代の仲間たちがいるのは分かったので、かなり興味はありました。千葉では、初顔合わせのメンバーが多く、苦労したこともあったので、すでにお互いに分かり合っているメンバーがいるというのは、選ぶ上で大きなファクターでした。

熊本では、ホントになかなか勝てず苦労しましたが、自分はHCをサポートする立場で、HCのやりたいバスケットをしっかり理解し、選手に伝えて行くということに時間をかけました。日本人の感覚というのは世界的にみても独特ですし、熊本のデシルバHCも外国人選手も日本が初めてだったので、なかなか日本人のことを理解してもらうのは難しかったです。しかも、なかなか勝てないとなると、やはりチームの溝も大きくなります。結果、3月終わりにHCは解任され、私がHC代行に就任しましたが、最初の試合で会社と決定的に意見が合わず、HC代行は4日間で辞任させていただきました。

その後、トヨタからは声をかけていただいたのは、とても幸運でした。トヨタは長く、ベックHC、伊藤ACの2人体制でやってましたが、3人目のコーチを探しているということで、声をかけていただきました。どうして自分に白羽の矢が立ったのかは良く分かりません(笑)。ただ、やるからには自分にやれることを一つずつやって行こうと思います。



「部活コーチ」からプロフェッショナルの世界へ

◆「部活コーチ」時代の思い出と、JBA コーチ研修に参加することになったきっかけを聞かせてください。思い出はたくさんありますが、別に東京で優勝争いをするような強いチームではなかったので、試合の思い出というよりは、選手が成長していくことが楽しかったです。最近は教え子が大学生くらいになっているので、ご飯を食べに行ったりしてます。去年は最後の教え子が高校3年だったので、オフになったらほとんど全員の試合を見に行きました。特に最後に指導した2年間は、能力はあまり高くなかったですが、バスケットへの理解度はとても高く、自分の伝えたいことが一番伝わっているなと思えるチームでした。2年間の卒業生のうちほとんど全員が高校でもバスケットを続けて、うち9人が各高校のバスケット部で3年時にキャプテンをしてました。それを考えると選手に恵まれたおかげで自分も楽しくコーチできてたんだと思

います。

アメリカへ行こうと思ったのは、やっぱり NCAA や NBA のコーチがどう考えてどんな指導をしているのかが興味があったからです。それまでは、アメリカに留学したこともなければコネなど全くなかったもので、試合を自分で見に行ったりするのが限界でした。その中で最初に興味を持ったのがプリンストンオフenseだったので、自分で勉強したり、当時、鹿屋でコーチをしていた福田さんをお願いしていろいろ教えてもらったりしました。また、プリンストンの次には、ドリブルドライブモーションオフense (以下、DDMO) をやってたんですが、その時は実際に DDMO を考案した Walberg コーチが AG をしていた UMASS (マサチューセッツ大学) の試合をボストンまで見に行ったりしていました。そんな中で、あんたかさんの紹介で、JBA のコーチ研修を知ったのが参加したきっかけでした。

◆そのコーチ研修の後、Nippon Tornadoes にアシスタントコーチとして参戦するわけですが、決断には難しい面もあったのではないですか？

最初のコーチ研修の時に、西田さんにトルネードで AG をしないかと声をかけていただいたんですが、正直ものすごく行きたかったんですが、指導している中学生にとっては大事な大会のある 4 月、5 月だったので、悩んでその場ではお断りしました。ただ、帰国後にいろいろ考えて心変わりしました。選手には、「目標や夢に向かって」とか、「学ぶこと、成長することが大切」とか言いながら指導しているのに、自分がそういう環境に行かないようでは矛盾してるよね？と自分の中でちょっとムリやり理屈をつくって、行く事決めました。

正直、選手の親からも反対の声がなかったわけではないんですが、教え子の大学生に 2 ヶ月間チームを託してトルネードに参加しました。



JBA コーチ研修のひとコマ

◆そして Nippon Tornadoes に参加したわけですが、参加したことで得られたものとはなんでしょう。



Nippon Tornadoes 2009 参加当時の富山コーチ

いっぱいありすぎて困るんですが (笑)

得たもので一番大きかったのは 2 ヶ月一緒に戦った仲間ですね。いまだにみんな連絡を取り合ってますし、バスケット界でそれぞれ活躍を続けているのを見ると、刺激も受けるし嬉しいです。特に大輔さんとは約 1 シーズン (途中で 2 人も辞めてしまったことも「らしい」と前向きに捉えています) 一緒にチームで戦えてホントに良かったです。大輔さんとマ

サは、人生で最初に出会ったプロ選手だったので、いろいろなことを教えられましたし、プロを考える上でのスタンダードになっている選手です。他のメンバーもみんなどんどんステップアップして欲しいと思ってますし、また一緒にチームでやれたらいいなとも思います。

試合は 18 連敗でしたが、得たものは大きかったですね。内容もほとんど全部覚えてます。特に最終戦で 145 点取ったのは忘れられません。相手には 180 点取られましたけど (笑) でも、みんなホントにタフ

に戦ったので1番記憶に残ってる試合ですね。

◆最後に。Coach トミーの今の夢を教えてください。

実は正直なところ、夢とかあんまりなくてですね…。

現在が夢の中にいるような感じなんで、毎日バスケットに関われることが楽しくて仕方がないという感じなんです。トルネードに参加できただけでも、「2ヶ月間バスケットのことだけ考えて生活できるなんて、どんだけ幸せなんだ」という感覚だったので、そんな幸運がこれまでもずっと続いている感じです。できればこれからもバスケットに関していきたいですが、この職業は実力の世界なのでどうなるか分かりません。だからこれまでもいつクビになっても後悔のないように全力でやってきたつもりですし、これからもワクワク感のある生活ができればいいなと思います。実はこれまでも、人生の岐路や、選択しなければならぬ状況になると、ワクワクするかどうかだけを基準に選んできたんです。なので、あまり先のことは考えずに目先のことだけをしっかりと考えて動く、というのが自分らしいかなと思っています。

正直、今の自分のコーチとしての知識やスキルに満足しているわけではないですし、もっともっといろいろなことを学びたいと思っています。今も毎日の練習が気付きの連続です。7月からは毎日、日本一の環境でバスケットできているので、そう考えるだけでも興奮して眠れなくなることがあります。夢というより目標ですが、やはり優勝したいです。

そして、コーチとして大切なのは、最終的には選手との人間関係かなと思っています。それが最初のシアトルでのコーチ研修で学んだことでもあります。トルネードでも、岩手でも、千葉でも、熊本でも、一番の財産はやっぱり仲間なんですよ。熊本でも今後一生の付き合いになるであろう出会いがたくさんありました。なので、今後のバスケット人生でもいろいろな出会いを大切にしていきたいと思っています。夢の話でなくて申し訳ないですが。

富山 晋司 (Shinji Tomiyama) 生年月日：1981年5月12日 出身：東京都 出身校：立教大学

2005年、立教大学2年次より都内の小中学校のチームでコーチを務める。2009年、2012年 Nippon Tornadoes AC。

コーチ歴：2009-2010 bjリーグ 東京アパッチ アシスタントコーチ

2011-2012 bjリーグ 岩手ビッグブルズ アシスタントコーチ

2012-2013 bjリーグ 千葉ジェッツ ヘッドコーチ

2013-2014 NBL 熊本ヴォルターズ アシスタントコーチ

※Japan Basketball Academy Monthly Newsは原則として月1回発行します。HOOPにまつわる楽しい話題、ためになる情報をお知らせください。

発行責任者：JBA 愛媛 牧野淳 mackee1968@gmail.com